

ならなかった。そのうちに、うわさによれば、西陣の一部も爆撃されて、死体がトラック三台で運ばれたということだったが、これもうわさを聞くだけでその実態は発表されなかった。

(昭和四七年二月七日付手紙から)

決戦非常日記(抜すい)

須賀隆賢

昭和二〇年一月一六日(火)晴寒

登校、授業。午後三時近く下校。五時近く帰宅。

十四日、敵機伊勢外宮豊受大神聖域へ爆弾投じ、神楽殿、神舎など六、七棟被害。ご本殿安泰。いよいよ思想戦となった。国体概念にひびを入れ、神国への自信を破壊しようと不逞暴虐の挙に出たのだ。万邦無比、国体の破却をめざしていることは明白だ。

一六日夜分一一時半ごろ、突然、ブルンブルンと異常な飛行機のうなりが聞こえる。これが地ひびきをたてて、旋回しているらしい。これは敵機、はて、警報も出てないが。とびおきて

空を見る。星がふっている。ところが、ドカンドカン。ブルブルブルとガラス戸が大震動。これはと思い表へ出たが、もう何事もなく静まりかえって別糸はないがなと入って寝たところへ、警報が出た。一機、三重から脱去……。

一月一七日

今朝学校へ行くと、東山学区内爆弾投下、被害とのよし。渋谷道だとのこと。そのうちに四年本江源一が傷害、二年井上孝哉が重傷との報。いよいよ大変と、午後石井、貫井と三人見舞、視察。防空用員章がものをいって入った。女専第一小松寮の一つがやられている。幼稚園がひどい。柴垣妙子は第三寮で無事。井上と本江の家のまんにドカンと落ちた。近所はこっばみじん。目もあてられぬ。ちょうど本江の兄のかたが元気で、あと片づけ中。ばあさんレキが重傷で府立病院。女の子(七つ)即死。井上は父負傷、母重傷。本人は、頭と左足の骨が折れた。妹が腹部貫通で即死。その間に寝ていた小さい妹は微傷もない。その辺一帯家屋倒壊。少し東、火災で焼けている。北側は爆風で戸、障子めっちゃめっちゃ。ガラスこなごなでみじん。電車道の北へも一個落ち、相当被害。女学校、修道校、ガラス惨憺、各教室惨憺たるもの。死者も三、四〇はあろう。傷者は数倍か。京都最初の空爆である。これで市民も覚醒するだろう。この夜は暗かった。

(当時東山中学校長)

一昨夜半B29一機
京都市に侵入、投弾
市民憤激新たに生産救済
敵機は常に深夜の燈塔
殆ど爆弾使用
屠るB29四二四機
敵本土三角爆撃
飯田軍曹